## ドートレトミシー、月イチのコンサートはじめました

ドートレトミシーが小西健二音楽堂での定期コンサートをはじめました。10月22日の第1回目は、初開催にもかかわらず2階まで満席の大盛況。

オリジナル曲『手紙』でしっとりと始まり、リクエストのあったカバー曲『木蓮の涙』なども披露。ピアノ・YOKOさんの「海の中で演奏してみたい」という希望で実現した心安らぐ背景の中、来場者は目を閉じて聴き入ったり、自然とリズムに合わせて首を振ったり。盈舟屋珈琲さん（東2号）の温かいコーヒーを片手に、思い思いに音楽の響く空間を楽しんでいました。

記念すべき最初のゲストはバンド〝キトウシ森林公園〟のボーカル・佐々木マサミツさん。気さくなキャラクターで場を大いに盛り上げ、キョウスケさんのギターやカホン（箱型の打楽器）とコラボ演奏&歌唱しました。

「小西音楽堂は日常のキズを癒してくれる不思議な空間。みんなが集える場所にしたい」というYOKOさんの言葉通り、笑顔あふれるコンサートになりました。

11月16日の第2回では、ゲストに若松美帆子さんを迎えて朗読とのコラボレーション。YOKOさんのピアノに合わせ、若松さんが『平日村』（斎藤隆介作、滝平二郎絵、岩崎書店、1980年）を朗読。また、オリジナル曲『Bridge（ブリッジ）』を、キョウスケさんのギターにのせ、若松さんが歌詞をストーリーとして読み上げました。初の試みでしたが、音楽と朗読の融合は想像以上の感動を生み、1回で終わらせるのはもったいないほど心に響く見事なコンビネーション。lämpö（ランプ）さんのキャンドルやアロマテラピーサロンiiさんのアロマも小西健二音楽堂を「あったかい場所」にするのに一役買いました。

定期コンサートは今後も月1回ペースで開催予定。12月は7日㈯のクリスマススペシャル（ゲストは〝コエヲキカセテ〟）と24日㈫です。ご予約はせんとぴゅあⅡの東川スタイル課へ！

## バグパイプ響く ラトビアの音楽

11月4日、せんとぴゅあIにて、Auli（アウリ）によるコンサートが開催されました。［主催：東川町芸術文化事業招へい委員会］

アウリはラトビアの首都リガで2003年に結成。バグパイプやタイコをはじめとした伝統楽器を使い、ラトビア民謡の旋律と現代の感覚を融合させた「民族トランス」と呼ばれる独特の世界観が特徴の音楽団です。初の来日ツアーとなる今回、ラトビア・ルイエナ町と姉妹都市として交流している東川町がスタート地点となりました。

バグパイプは、リードが付いた数本の音管（パイプ）を留気袋（バッグ）に溜めた空気を押し出して振動させることで音を出す民族楽器。音色はどこか懐かしく、雄大な自然を感じさせます。また、アウリが古い記述などを基に現代に蘇らせたブンガスは、一本の大木をくりぬいた巨大なタイコ。その勇壮な音と振動が、来場者の全身に響きました。コンサート中盤では歌手・加藤登紀子さんの『百万本のバラ』の原曲、『マリーニャの贈り物』も披露。終盤は奏者の合図に合わせ、観客が総立ちとなり腕を振り上げるなど、力強い音楽に包まれて会場がひとつになりました。



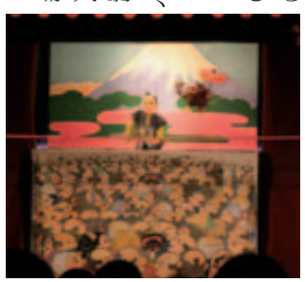
## 2つの親子朗読会で「おはなし」に親しむ

10月19日の第2回親子朗読会は、自然写真家の寺沢孝毅氏を迎えて開催しました。おはなしの会ピッピが寺沢氏の絵本『うみどりの島』でウミガラス（オロロン鳥）が天売島で過ごす1年間を朗読。続いて寺沢氏が、海鳥は〝海から魚を捕り、海で暮らす鳥〟だと解説。海鳥が空を飛ぶのは上空から海面付近にいる魚を探すためで、アホウドリは24時間も飛び続けられることなどを紹介しました。長年謎だったケイマフリ（赤い足が特徴の海鳥）の子育ての様子が、氏が崖の巣に仕掛けたビデオカメラにより明らかになったエピソードでは、オスが巣を足で地ならしするところから、ヒナの孵化～巣立ちまでの子育て100日記録を臨場感たっぷりに語り、来場者は興味津々。

近年世界中で問題視されている海洋ゴミについては、そのほとんどを占めるプラスチックが細かく砕かれ、魚や鳥を経由して人間の体内に入り、未知の影響及ぼす可能性を説明。「無人島でゴミ拾いした際、世界中のゴミが見つかり、地球は繋がっていることを実感した」という氏の言葉を通じ、まずは身近なところからゴミを減らすよう心がけることが大切だと学びました。

11月16日の第3回では、大人気の「おたのしみ劇場ガウチョス」による大道芸とマリオネット劇場を開催。

〝南京玉すだれ〟は「ぁさって、ぁさって…」のリズムに合わせて釣り竿や桃太郎の桃、馬、鉄棒、魚、そば…と次々に変化。「（いいですかー?）いいですよー!」とコール&レスポンスしながらチンドン太鼓に合わせて手拍子し、子どもも大人も一緒になって盛り上がりました。マリオネットによる「ぶんぶく茶釜」では、まるで生きているかのように多彩な表情をみせる人形（ごんべえさんと和尚さん）や茶釜に変身する子タヌキに、子どもたちは「たぬきがちゃがまになったー!?」「ちゃがまからしっぽ出てるー!」とおおはしゃぎ。ラストは見世物小屋で成功を収めたごんべえさんと子タヌキに惜しみない拍手がおくられ、今年も盛況のうちに幕を閉じました。



## 本に親しむ「図書まつり」

11月10日、せんとぴゅあⅡほんの森の「図書まつり」では、館内全館を使って様々な催しを行いました。

「古本リサイクル市」ではほんの森で使用しなくなった絵本、小説、学術書などを無料配布。子どもたちは真剣にページをめくって本を選び、受付のスタッフは「たくさん読んでね」と新たな持ち主のところへ送り出しました。

「わくわく!おはなし会」ではおはなしの会ピッピがパネルシアター『どうぞのいす』や大きな絵本『あかまるちゃんとくろまるちゃん』などを読み聞かせ。旭川福祉専門学校のエプロンシアター『3びきのやぎのがらがらどん』では子どもたちから「がらがらどんがんばれー」と声援が送られるなど、微笑ましいひと時になりました。

「大人のおはなし会」では江戸川乱歩作『D坂の殺人事件』をほんの森スタッフ3名が朗読。一人での読書とは違った感覚で物語に聴き入りました。

当日は本を借りた子どもたちに雑誌付録などのプレゼントを実施。何が当たるかわからないくじ引きにワクワクした様子で、もらった付録をその場で組み立てる子もたくさんいました。